

評価者	文化財部長	梶淵 規彰
-----	-------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	歴史環境	施策の方針	文化財の保存、調査・研究、情報の充実
目標とすべきまちの姿		文化財保護体制の強化により、文化財指定件数が増え、文化財の適切な保存が図られています。発掘調査体制が強化され、市内遺跡の発掘調査及び報告書刊行が円滑に行われています。文化財資料がデータベース化され、出土品、歴史資料等の整理、保管がなされています。保管する文化財は展示施設等で一般に公開されるとともに、文化財の調査・研究の成果は、学校教育・生涯学習事業と連携し、市民への情報として発信されています。郷土芸能大会などによる情報発信により、伝統芸能の保護・技術の伝承が図られています。		

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	令和元年度(2019年度)	18.4%	平成30年度(2018年度)	15.9%	平成29年度(2017年度)	18.1%
	平成28年度(2016年度)	18.8%	平成27年度(2015年度)	18.6%		

(2) 妥当性

**令和元年度(2019年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	4.5%	1.1%	0.2%
ちょうどよい	7.7%	40.8%	1.6%
効果不十分	10.9%	3.4%	6.4%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成30年度(2018年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	6.1%	0.8%	0.0%
ちょうどよい	14.4%	38.0%	0.3%
効果不十分	10.1%	2.3%	7.6%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成29年度(2017年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	6.9%	0.9%	0.5%
ちょうどよい	11.4%	32.9%	1.2%
効果不十分	11.6%	3.2%	7.9%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成28年度(2016年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	5.2%	0.4%	0.2%
ちょうどよい	9.2%	39.6%	1.1%
効果不十分	9.9%	4.3%	6.7%

仕事の効果

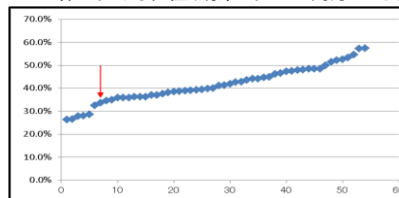
全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成27年度(2015年度)

お金の使い方

仕事の効果	お金の使い方		
	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
	必要以上の効果	6.0%	0.7%
ちょうどよい	11.4%	33.6%	1.0%
効果不十分	11.0%	3.7%	8.0%

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)



(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
令和元年度(2019年度)	17.4%	48.5%	11.0%	23.0%
平成30年度(2018年度)	17.2%	53.1%	9.1%	20.7%
平成29年度(2017年度)	19.5%	44.1%	12.3%	24.1%
平成28年度(2016年度)	16.0%	51.5%	8.9%	23.6%
平成27年度(2015年度)	18.7%	45.1%	11.4%	24.7%

2 内部評価

(1) 令和元年度(2019年度)の目標

- ①発掘調査費補助金制度を活用しながら、発掘調査待機期間の短縮を図るとともに、報告書未刊行の調査資料の整理を促進する。あわせて文化財の情報を広く公開していくため資料のデジタル化を引き続き進める。(文財-04)
- ②文化財の保存・修理については、緊急性・重要性に応じた適切な保存修理を継続していけるよう、引き続き、文化財の状況の的確な把握に努める。(文財-05)
- ③郷土芸能大会に来場する外国人が多くなっているため、英語等での情報発信を進めていくとともに、市内中学生の出演機会を設けるなど、若年層への普及啓発に努める。(文財-06)
- ④市の直営文化施設である鎌倉国宝館・鎌倉歴史文化交流館の連携を強化し、鎌倉の文化財の保存・活用、普及啓発に努める。(文財-07,08)
- ⑤鎌倉歴史文化交流館では、周辺住民にも誇れる施設となるよう魅力的な展示やイベントを実施し、住民のご理解をいただけるよう、来館者が増える取り組みを進めていく。(文財-08)

(2) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

- ①発掘調査費補助金制度を活用しながら、発掘調査待機期間の短縮を図るとともに、報告書未刊行の調査資料の整理を促進することで、市内遺跡の発掘調査及び報告書刊行を円滑に行う。(文財-04)
- ②文化財の状況を的確に把握しつつ、緊急性・重要性に応じて保存修理を継続的に支援していくことで、文化財の適切な保護を図る。(文財-05)
- ③郷土芸能大会の情報を日本語だけでなく英語等で発信するとともに、市内中学生の出演機会を設けるなど若年層への啓発を進めることで、伝統芸能の保護・技術の伝承を図る。
- ④、⑤鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館では、収蔵資料を適切に整理、保管し、展覧会の開催や各種イベントの積極的な実施、学校教育等との連携により、鎌倉の文化財を市民等へ情報発信する。

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名	決算値(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
		令和元年度(2019年度)	平成30年度(2018年度)	令和元年度(2019年度)	平成30年度(2018年度)		事業内容	予算規模
文財-04	文化財調査・整備事業	193,515	177,489	4.0	4.0	無	a	A
文財-05	文化財保存・修理助成事業	50,349	50,604	2.5	1.5	無	b	B
文財-06	公開宣伝事業	2,213	1,524	2.0	1.0	無	b	B
文財-07	国宝館管理運営事業	56,727	67,905	2.5	3.5	無	b	B
文財-08	鎌倉歴史文化交流館管理運営事業	59,649	57,601	3.5	3.5	無	b	B

**(4) 主な実施内容**

**【主な実施内容】**

- ①報告書未刊行資料の縮減について、業務の一部を外部に委託して15件分の出土資料の整理・報告書の作成を行った結果、未刊行分は残り15件となった。令和2年度末には未刊行が解消する見込みである。(文財-04)
- ①過去の発掘調査時に撮影した写真資料約100万枚のうち、約15万枚(約15%)をデジタル化した。平成30年度実施分と併せ、調査時の写真全体では45%のデジタル化を実施済である。(文財-04)
- ②指定文化財の保存修理事業を優先度の高いものから適切に実施できるよう、文化財の所有者と密に連携をとりながら、文化財の状況の把握に努め、事業を進めた。(文財-05)
- ②③平成30年度に行った文化財課の取組内容をまとめた、「鎌倉市文化財年報」を刊行した。(文財-03, 04, 05, 06)
- ③日本語及び英語表記の郷土芸能大会のポスター、チラシを作成し配布した。また、第50回郷土芸能大会を光明寺で開催し、玉縄中学校箏曲部及び玉縄太鼓を特別出演として招いた。(文財-06)
- ④鎌倉国宝館では、置き型免震台(7台)を導入し、利用者の利便性向上と文化財の確実な保存に努めた。(文財-07)
- ④⑤鎌倉国宝館と鎌倉歴史文化交流館では、広報、SNS等において館の情報発信を行うとともに、講座等の様々な催しを実施し、市民等の学びの場として積極的にPRを行った。(文財-07, 08)
- ④⑤鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館で利用可能な年間パスポートを市内の小中学生、全員に配布した。(文財-07, 08)
- ④⑤学芸員等の研究成果を収録した、鎌倉市教育委員会文化財部調査研究紀要を刊行した。(文財-07, 08)

**【実施できなかった事業とその理由等】**

- ①発掘調査までの待機期間については目標には達しなかったが、調査件数が平成30年度より減少傾向にあることに伴い、待機時間も短縮している。(文財-04)
- ⑤鎌倉歴史文化交流館では、日曜・祝日開館等を実施するための近隣住民との意見交換会を実施せず、事業を着実に実施することで近隣の理解を図ることとしたため、この一年では大きな進捗は見られなかった。(文財-08)

**(5) 令和元年度(2019年度)の取組の評価**

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	□ 適切	■ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

**<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>**

- ・発掘調査後に報告書が未刊行となっていた調査報告書の作成業務の一部を外部に委託することで、未刊行報告書件数を縮減することができた。(文財-04)
- ・平成27年度に創設した発掘調査費補助金の導入により、発掘調査開始までの待機期間縮減が図られ、「目標とすべきまちの姿」の実現に近づいている。平成30年度に件数が増加し、待機期間も増加しているが、以降は減少に転じている。市民生活への影響を一層減らすため、調査・研究体制の強化について引き続き検討を進め、「目標とすべきまちの姿」の実現に向けて取り組んでいく必要がある。(文財-04)
- ・鎌倉国宝館において、置き型免震台(7台)を導入し、文化財がより確実に保存できる体制が整えられた。(文財-07)
- ・鎌倉国宝館では、特別展開連講座や出張講座といった一般向けの公開講座を実施したほか、市内外の小中高等学校の観覧時にも特別解説等を実施することで、学校教育との連携を図った。(文財-07)
- ・鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館は、教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする施設であることから、公正・公平な収支を優先事項とすることは困難であるが、維持運営のための必要な対価として、観覧料導入等の受益者負担を求めており、今後も引き続き歳入確保に向けた取り組みを実施する必要がある。(文財-07, 08)
- ・鎌倉歴史文化交流館では、日曜・祝日開館等を実施するための近隣住民との意見交換会を実施せず、事業を着実に実施することで近隣の理解を図ることとしたため、この一年では大きな進捗は見られなかった。引き続き、近隣住民に理解を得られるよう取り組みを進める必要がある。(文財-08)

**3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)**

整理番号	文財-04	事業名	文化財調査・整備事業							
指標の内容	発掘調査報告書の未刊行件数					単位	件	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	達成率=目標値/実績値		
発掘調査実施後、未報告となっている資料の縮減が課題であるため。	目標値	-	-	65	45.0	33.0	22.0			
	実績値	-	77	63	55.0	27.0	15.0			
	達成率	-	-	103.2%	81.8%	122.2%	146.7%			
整理番号	文財-04	事業名	文化財調査・整備事業							
指標の内容	発掘調査までの待機期間					単位	月	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	達成率=目標値/実績値		
待機期間の縮減が課題であるため。	目標値	-	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0			
	実績値	11.0	8.0	4.0	6.0	9.0	7.0			
	達成率	-	75.0%	150.0%	100.0%	66.7%	85.7%			

整理番号	文財-05	事業名	文化財保存・修理助成事業					単位	件	指標の傾向	↗	備考
指標の内容	保存修理件数							単位	件	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)					
着実に保存修理を実施することにより、貴重な文化財をより良い状態で後世に引き継ぐことができるため。	目標値	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	11.0					
	実績値	12.0	11.0	12.0	11.0	10.0	15.0					
	達成率	171.4%	137.5%	133.3%	110.0%	90.9%	136.4%					
整理番号	文財-06	事業名	公開宣伝事業					単位	人	指標の傾向	↘	備考
指標の内容	鎌倉市遺跡調査・研究発表会来場者数							単位	人	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)					
来場者が多いほど、より多くの市民等が、市内の埋蔵文化財への理解を深めていると判断できるため。	目標値	280.0	280.0	280.0	200.0	200.0	200.0					
	実績値	280.0	280.0	120.0	140.0	150.0	110.0					
	達成率	100.0%	100.0%	42.9%	70.0%	75.0%	55.0%					
整理番号	文財-07	事業名	国宝館管理運営事業					単位	人	指標の傾向	↘	備考
指標の内容	入館者数							単位	人	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)					
当該事業へのニーズや反響を把握するため。	目標値	70,000.0	70,000.0	70,000.0	70,000.0	70,000.0	70,000.0					
	実績値	30,875.0	50,585.0	44,961.0	47,282.0	48,907.0	36,644.0					
	達成率	44.1%	72.3%	64.2%	67.5%	69.9%	52.3%					
整理番号	文財-08	事業名	鎌倉歴史文化交流館管理運営事業					単位	人	指標の傾向	↘	備考
指標の内容	入館者数							単位	人	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)					
周辺環境に配慮しながら、適切な運営を行う上で、施設の有効性を把握するため。	目標値	-	-	-	60,000	45,000	45,000					
	実績値	-	-	-	23,238	19,000	13,546					
	達成率	-	-	-	38.7%	42.2%	30.1%					